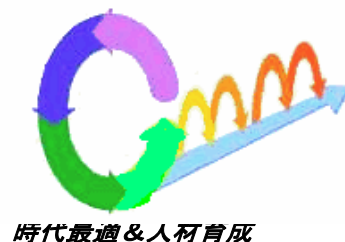


SEPG JAPAN 2004



プロジェクト管理成果物を ノーツで管理

恐るべきノーツ文化を活用した、
現場に負荷をかけないツールの実現



平成16年9月16日
第一生命情報システム(株)

- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

当社の紹介



- 第一生命のシステム子会社
- 平成11年6月1日に、第一生命の情報システム部と、システム子会社2社(DCS、DISK)を統合し設立。
- 第一生命のシステムの開発、保守、運用が中心
＋外販事業(グループ内外)
- 社員数は、約1500、うち1000名程度がシステム関連



府中本社(東京都)

大井事業所(神奈川県)



- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

品質への対応

- 品質向上の組織的活動は、かなり昔から(伝統的)
- 活動の中心は、稼動後障害の特定と原因究明、改善策立案、フォローといったリバーサ的なもの。
- DLS発足後も「品質向上委員会」に受け継がれたが、その中で、「プロジェクトマネージャの育成」や「プロセス改善」が課題に。



平成14年4月にCMM推進室が発足
本格的なプロセス改善活動を開始

プロセス改善とCMMへの取り組み

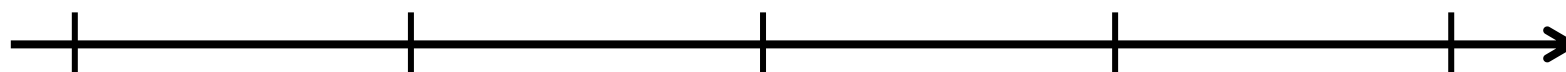


SW-CMMを軸としたプロセス改善への取り組み

H14(2002). 4

H15(2003). 4

H16(2004). 4



専任組織
(4名+担当役員)
としてCMM推進室発足



H16(2004). 1月
正式アセスメントにて
SW-CMMレベル2到達を確認

- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取り組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

レベル2を支援するツールとは？ (SW-CMMの補足情報より)

- 表計算プログラム
- 構成管理ツール
- 追跡用ツール
- テスト管理用ツール
- 見積りモデル
- プロジェクトの計画作成やスケジュール作成のためのプログラム
- プロジェクト管理とスケジュール作成に関するプログラム
- ワークステーション
- データベースプログラム
- 監査ツール
- ソフトウェアベースラインライブラリ

手っ取り早いのは、市販ツールの導入

市販ツールの評価実施

- 市販製品の導入が普通という既成概念
 - ⇒ 当社の成熟度には、**過剰装備・過剰投資**
 - ⇒ インターフェースもしっかりこない (**教育に時間・工数が掛る**)
 - ⇒ 市販製品のほとんどは、Win98以上 (**社内インフラの制約**)
- プロセスのカバーをツールに頼りたい気持ち
 - ⇒ 社内のおシステムと重複した入力項目 (**現場の抵抗**)
- レベル2では、どこまでツールが必須なのか、よくわからない
 - ⇒ 市販製品を導入すれば大丈夫だし、安心できる
- レベル3でも、耐えうるものを導入した方が良い
 - ⇒ 長く使えるツール



原点に立ち返る
ツールを主に使うのは、開発現場！！
ツールで補うものは、何だろう？

- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取り組み
- レベル2を支援するツールの検討
- **支援ツール実装の解決策**
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

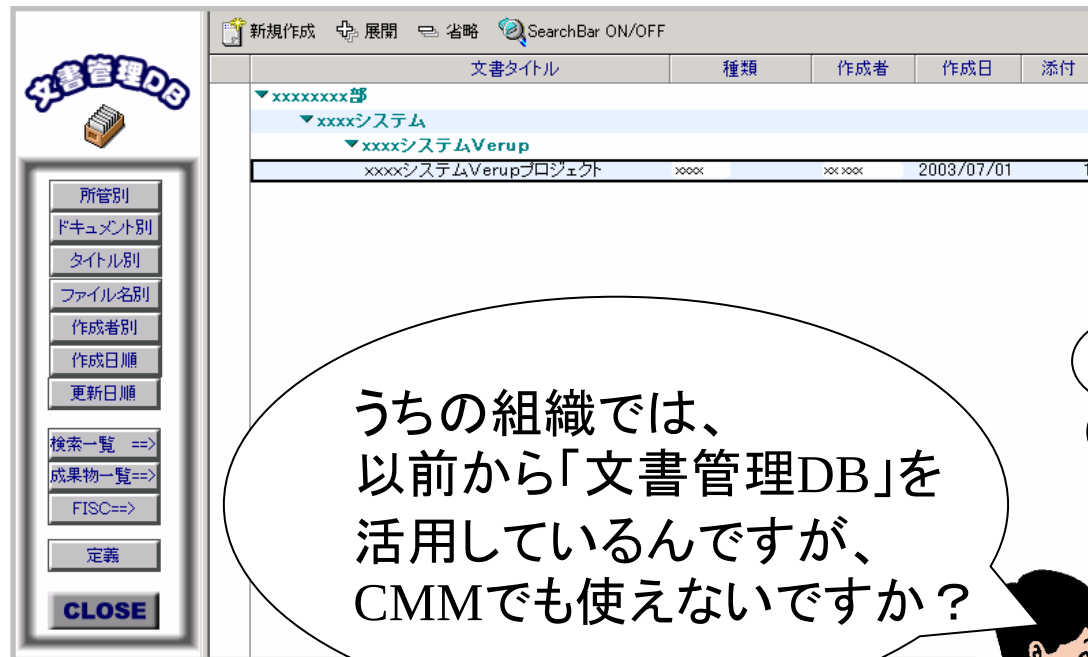
独自開発決定の経緯

- 前述の
 - ①適正装備・適正投資
 - ②社内インフラの制約
 - ③教育に掛る工数を最小限に抑える
 - ④現場の負荷軽減の全てをクリアするために独自開発を選択した。
- 独自開発と言っても、開発するのは、「ソフトウェアベースラインライブラリ」に限定した。
 - ⇒他の支援ツールは、表計算ソフト、文書作成ソフトがあれば、ほとんどの事が可能
- 格好良い物はいらない。必要最低限の物だけでOK。

現状の身の回りにあるもので、
何とかならないかな～？



ツールのヒントは、 現場からの「こんなのあるよ」の一言からだった



うちの組織では、
以前から「文書管理DB」を
活用しているんですが、
CMMでも使えないですか？

おおっ！
これ結構使えそうだよ。



ソフトウェアベースラインライブラリに必要な機能

- プロジェクトマネジメント成果物を
 - 格納できる機能
 - 世代管理できる機能
 - 関係者で共有できる機能
 - 成果物単位にアクセス権限を設定できる機能
- プロジェクトマネジメント成果物のテンプレートを提供できる機能



まずは、
これだけあれば十分だ！！

当社の恐るべきノーツ文化

- 全社員にノーツを導入済み
- 社内の事務処理や稟議決裁などは、ノーツでワークフロー化
- 社内広報や通知・通達なども全てノーツ
- 各部門でも、独自のDBを開発しており経験が豊富



- ノーツは、生活の一部 ⇒ 恐るべき文化



- 必要なものを、必要なだけ、シンプルに実現可能
- 社内インフラの制約をクリア
- 操作方法などの教育は最小限で可能
- 現場は、プロジェクト管理や開発に専念できる

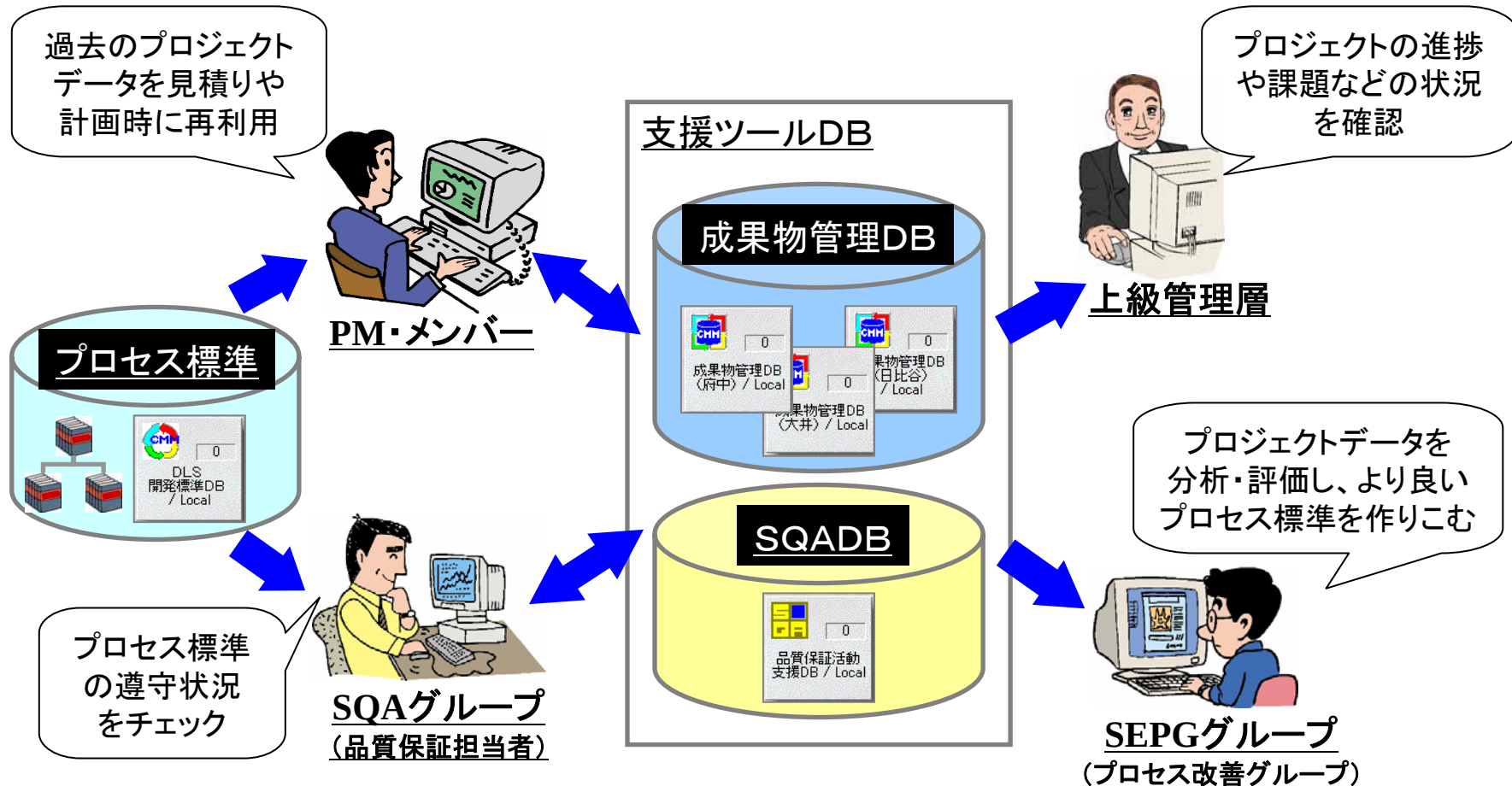


- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取り組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

独自開発した支援ツールの紹介



支援ツールの全体像(概観)

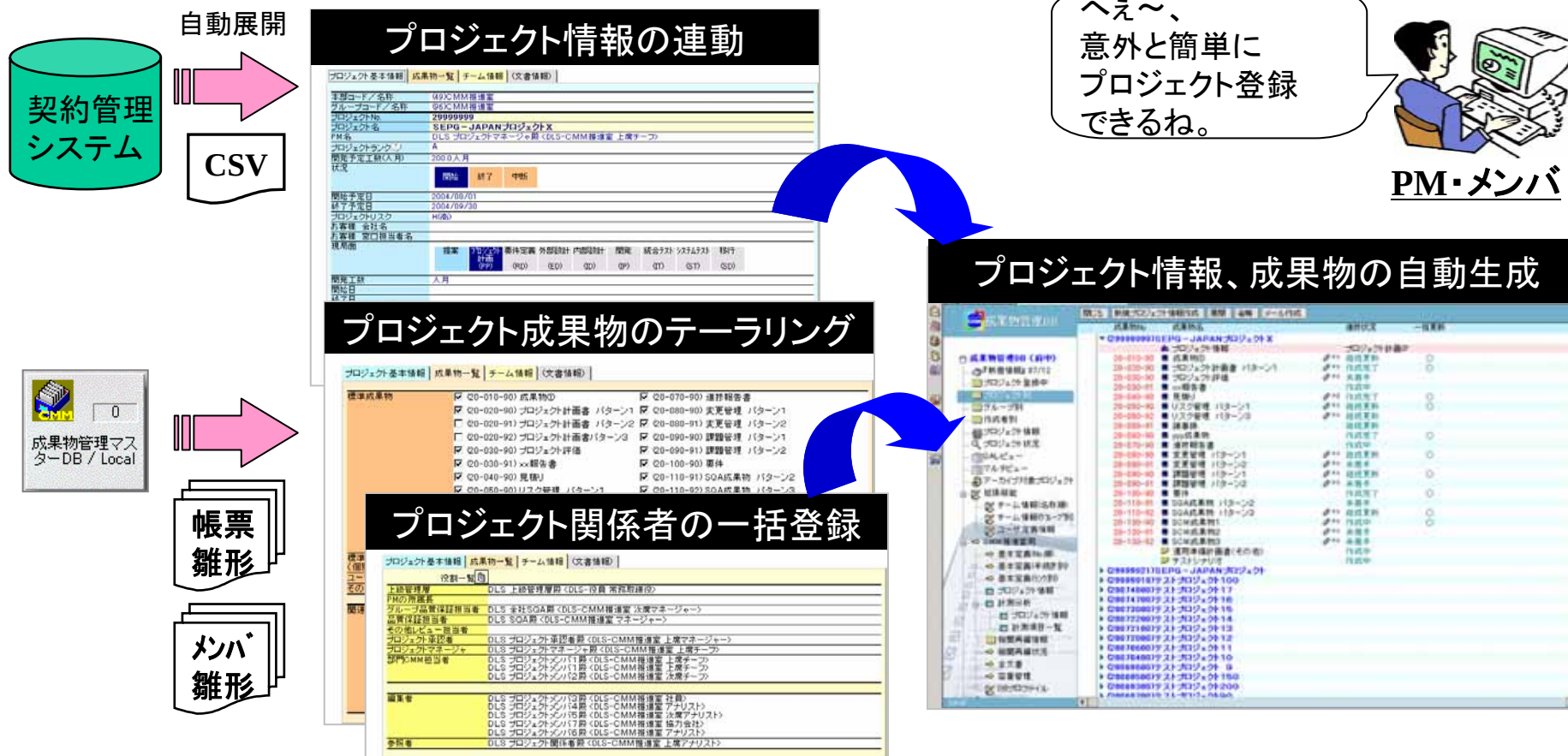


独自開発した支援ツールの紹介



成果物管理DBの主な機能

① 成果物保管機能 (プロジェクト登録から成果物保管まで)



独自開発した支援ツールの紹介



成果物管理DBの主な機能

②成果物の世代管理機能

ベースライン管理

一括更新

成果物文書

成果物情報	チーム情報	履歴文書	文書情報
※ 削除マーク(×)を付けた文書を物理削除する場合は、[F9]キーを押しコンピュータ上で削除してください。			
履歴文書作成日	履歴文書世代	世代更新コメント	
2004/08/03	1世代前	統合テスト(IT)局面完了時(自動作成)	
2004/08/03	2世代前	開発(IP)局面完了時(自動作成)	
2004/08/03	3世代前	内部設計(ID)局面完了時(自動作成)	
2004/08/03	4世代前	外部設計(ED)局面完了時(自動作成)	
2004/08/03	5世代前	要件定義(RD)局面完了時(自動作成)	
2004/08/03	6世代前	計画(PP)局面完了時(自動作成)	

バージョン管理

個別更新

成果物文書

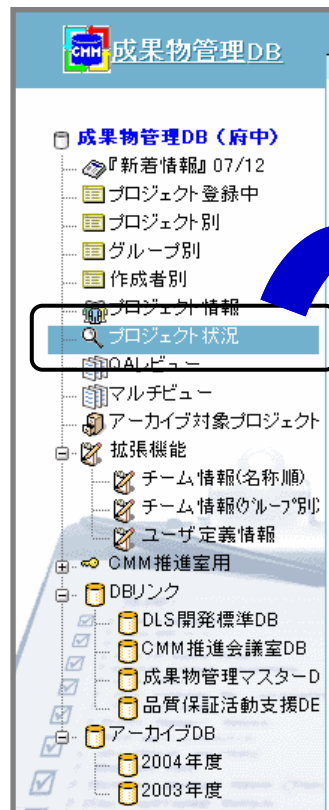
成果物情報	チーム情報	履歴文書	文書情報
※ 削除マーク(×)を付けた文書を物理削除する場合は、[F9]キーを押してコンピュータ上で削除してください。			
追加日	履歴タイトル		
2004/08/03	200409xx	進捗報告書	

独自開発した支援ツールの紹介



成果物管理DBの主な機能

③プロジェクト状況提供機能(可視性提供)



- 組織単位に規模別のプロジェクト状況を一括把握可能
- 成果物管理DB、SQADBから主要情報を収集し表示
 - － プロファイル情報(規模、期間、現局面、主要メンバなど)
 - － 計測情報(リスク・課題・変更・問題の数)
 - － 次回QALレビュー予定

プロジェクト状況ビュー														
プロジェクト名	局面	リスク状況	リスク数	課題数	変更数	要件数	問題数	QALレビュー	予定(人月)	開始[予実]	終了[予実]	PM名	承認者名	SQA名
▼ XXXXXXXX グループ														
20014600 テストプロジェクト1000	IT	H	20 30	20 30	15 30	20 30	20 30	※QAL6 2004/08/27	300.0	2003/09/01 2003/09/01	2004/11/30			
20027900 テストプロジェクト2000	PP	H	20 150	10 30				↑QAL2 2004/05/14	1000.0	2003/09/01 2003/09/01	2004/11/30			
20070600 テストプロジェクト11	PP	H	10 20	20 30				未定	500.0	2004/07/01 2004/07/06	2005/05/31			
20035100 テストプロジェクト3000	ST	L	50 100	50 100	50 100	50 100	50 100	※QAL6 2004/08/23	50.0	2004/04/01 2004/04/01	2004/10/29			
20035900 テストプロジェクト6000	IT	L	40 100	60 150	70 100	187 200	187 200	↑QAL6 2004/07/14	45.0	2004/04/01 2004/04/01	2004/07/31			
20037000 テストプロジェクト7000	ID	L						※QAL6 2005/01/14	40.0	2004/04/09 2004/04/09	2005/02/28			
20044100 テストプロジェクト8000	ST	M	50 100	170 200	50 150	200 250	200 250	※QAL6 2004/09/10	35.0	2004/04/01 2004/04/01	2004/09/30			
20045900 テストプロジェクト9000	ED	M	2 2	22 29	20 50			※QAL6 2004/12/15	30.0	2004/04/01 2004/04/01	2005/01/11			
20052700 テストプロジェクト1500	ID	L	10 50	20 50	30 50			※QAL6 2004/09/10	25.0	2004/04/01 2004/04/01	2004/10/30			
20052900 テストプロジェクト9500	ED	L	20 70	30 70	40 70			↑QAL1 2004/05/17	20.0	2004/04/01 2004/04/01	2004/09/30			
20053300 テストプロジェクト3800	ID	L	30 80	40 80	50 80			※QAL6 2004/09/07	15.0	2004/04/01 2004/04/01	2005/03/31			
20057000 テストプロジェクト10000	ID	L	30 90	40 90	50 90			※QAL6 2004/10/06	10.0	2004/05/20 2004/05/20	2004/11/30			

独自開発した支援ツールの紹介



成果物管理DBの主な機能

④アーカイブ機能(終了プロジェクトをアーカイブDBへ移動)

The image shows two screenshots from a software application. The left screenshot is a 'プロジェクト情報' (Project Information) form. It has tabs for 'プロジェクト基本情報', '成果物一覧', 'チーム情報', and '文書情報'. The 'プロジェクト基本情報' tab is active. It contains various fields for project details, including '開始予定日' (2004/08/01) and '終了予定日' (2004/09/30). A red box highlights the '終了' (Completed) button, with a blue arrow pointing from it to the right screenshot. The right screenshot is titled 'アーカイブDBのプロジェクト文書' (Project Documents in Archive DB). It shows a list of projects in a table with columns '成果物No' (Product No.), '成果物名' (Product Name), '進捗状況' (Progress Status), and '一括更新' (Batch Update). The list includes 30 entries, all marked as '終了' (Completed).

プロジェクト情報

プロジェクト基本情報 | 成果物一覧 | チーム情報 | 文書情報

必須 SS

プロジェクト終了

開始 終了 中断 アーカイブ後→「公開」

開始予定日 2004/08/01

終了予定日 2004/09/30

プロジェクトリスク H(高) M(中) L(低)

お客様 会社名

お客様 窓口担当者名

現局面

提案 プロジェクト計画 (PP) 要件定義 (RD) 外部設計 (ED) 内部設計 (ID) 開発 (OP) 統合テスト (QT)

アーカイブDBのプロジェクト文書

ワークスペース 成果物管理DB (府中) 成果物管理 04年度アーカイブ

成果物管理DB アーカイブ

成果物No 成果物名 進捗状況 一括更新

終了

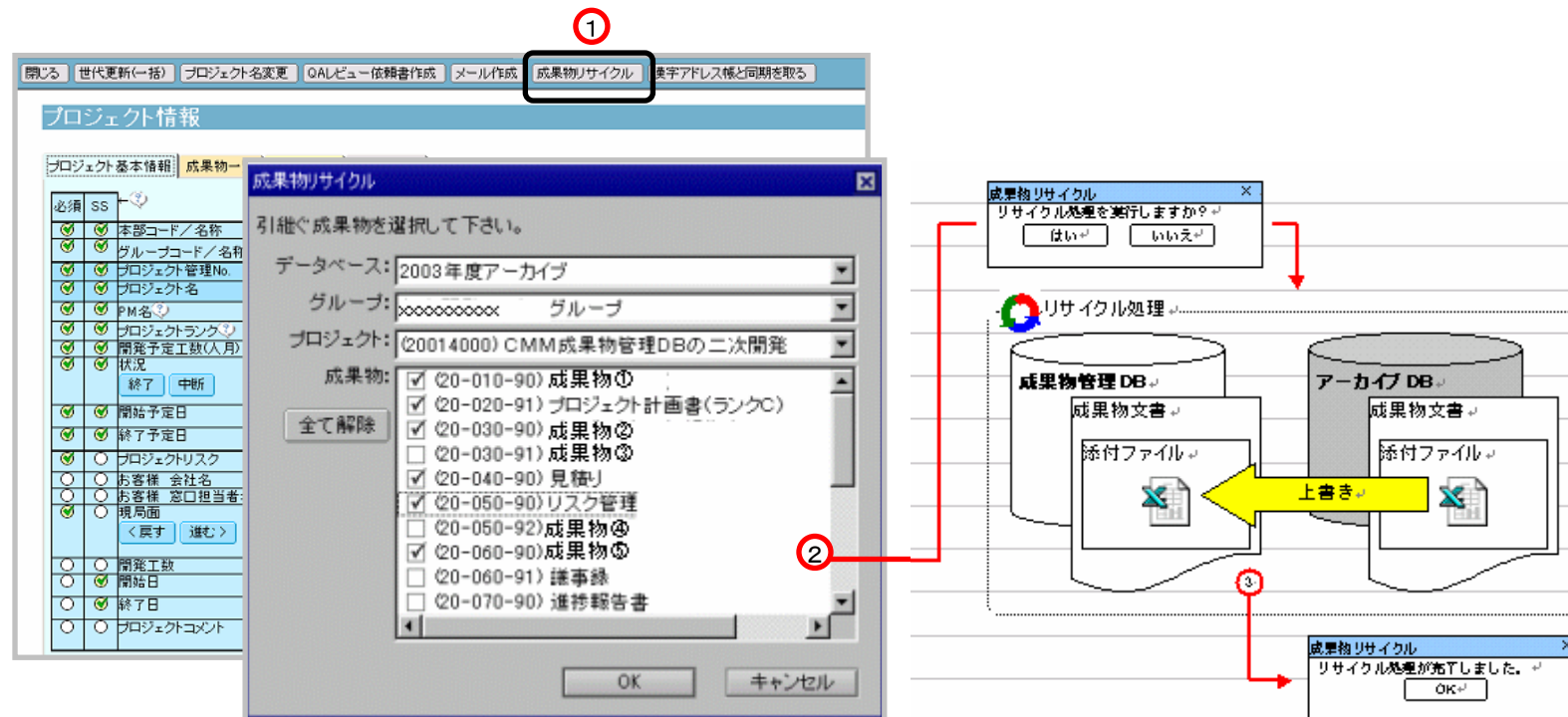
成果物No	成果物名	進捗状況	一括更新
1	テストプロジェクト	1	
2	テストプロジェクト	2	
3	テストプロジェクト	3	
4	テストプロジェクト	4	
5	テストプロジェクト	5	
6	テストプロジェクト	6	
7	テストプロジェクト	7	
8	テストプロジェクト	8	
9	テストプロジェクト	9	
10	テストプロジェクト	10	
11	テストプロジェクト	11	
12	テストプロジェクト	12	
13	テストプロジェクト	13	
14	テストプロジェクト	14	
15	テストプロジェクト	15	
16	テストプロジェクト	16	
17	テストプロジェクト	17	
18	テストプロジェクト	18	
19	テストプロジェクト	19	
20	テストプロジェクト	20	
21	テストプロジェクト	21	
22	テストプロジェクト	22	
23	テストプロジェクト	23	
24	テストプロジェクト	24	
25	テストプロジェクト	25	
26	テストプロジェクト	26	
27	テストプロジェクト	27	
28	テストプロジェクト	28	
29	テストプロジェクト	29	
30	テストプロジェクト	30	

独自開発した支援ツールの紹介



成果物管理DBの主な機能

⑤リサイクル機能(過去の類似プロジェクト再利用)



独自開発した支援ツールの紹介



成果物管理DBの主な機能

⑥メール生成機能(メンバー間連携)

The screenshot displays the 'CMM 成果物管理DB' application. The top menu bar includes '開じる', '新規プロジェクト情報作成', '展開', '省略', and 'メール作成'. The 'メール作成' button is highlighted with a blue box. A blue arrow points from this button to the 'メールフォーム' (Email Form) window.

The 'メールフォーム' window contains the following information:

- PM名: <DLS-xxxxxxxxxグループ>
- 宛先: 2004/08/13 16:57
- 件名: [CMM Mail] SEPG-JAPANプロジェクト
- 要件を入力して下さい。

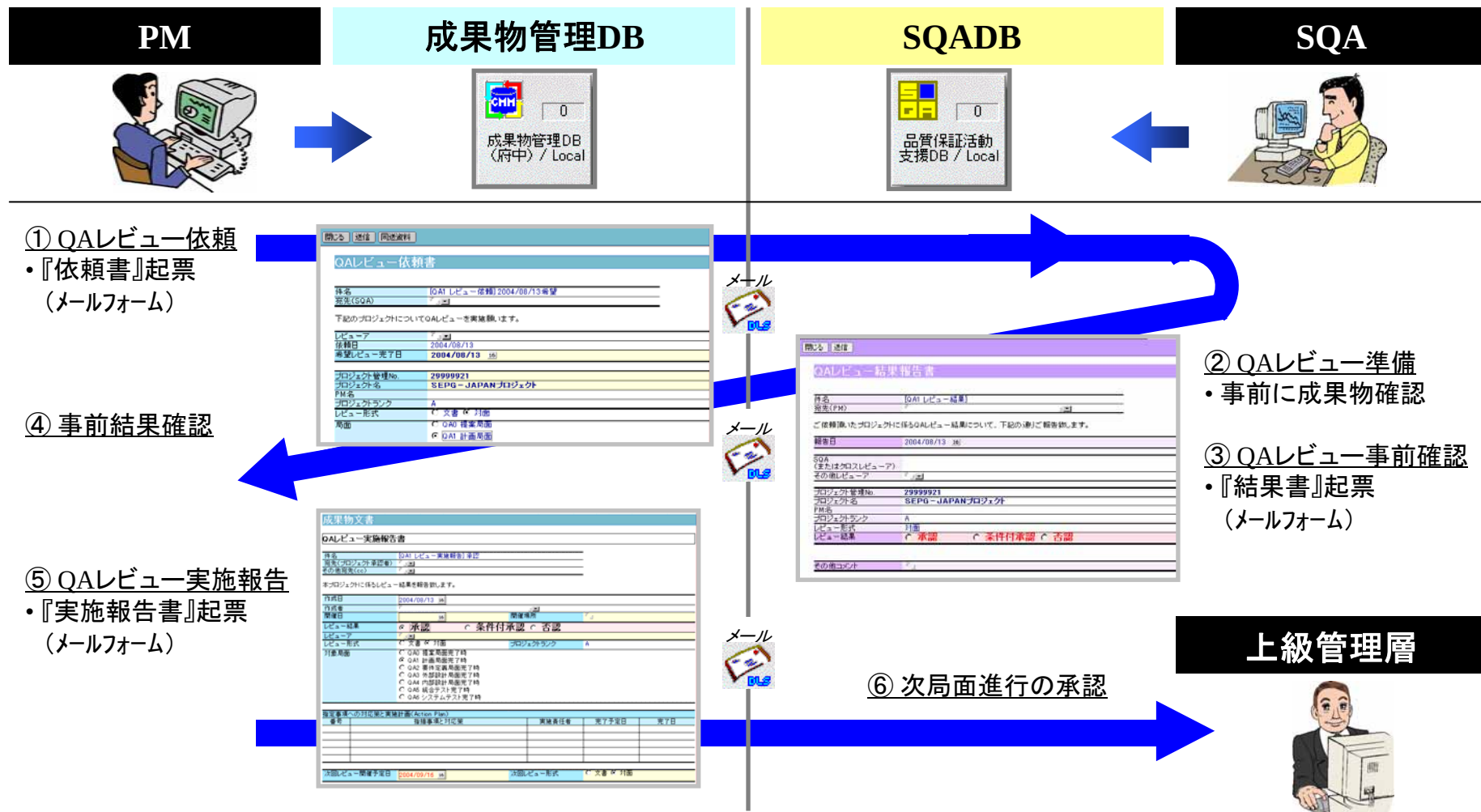
The email body contains a list of project items:

- (ここにコメントを挿入して下さい。)
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 成果物①
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - プロジェクト計画書...
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 成果物②
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 成果物③
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 見積り
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - リスク管理
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 成果物④
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 成果物⑤
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 議事録
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 進捗報告書
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 変更管理
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 成果物⑥
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - 課題管理
- 29999921 SEPG-JAPANプロジェクト - *プロジェクト情報

独自開発した支援ツールの紹介



SQA活動を支援するワークフロー機能



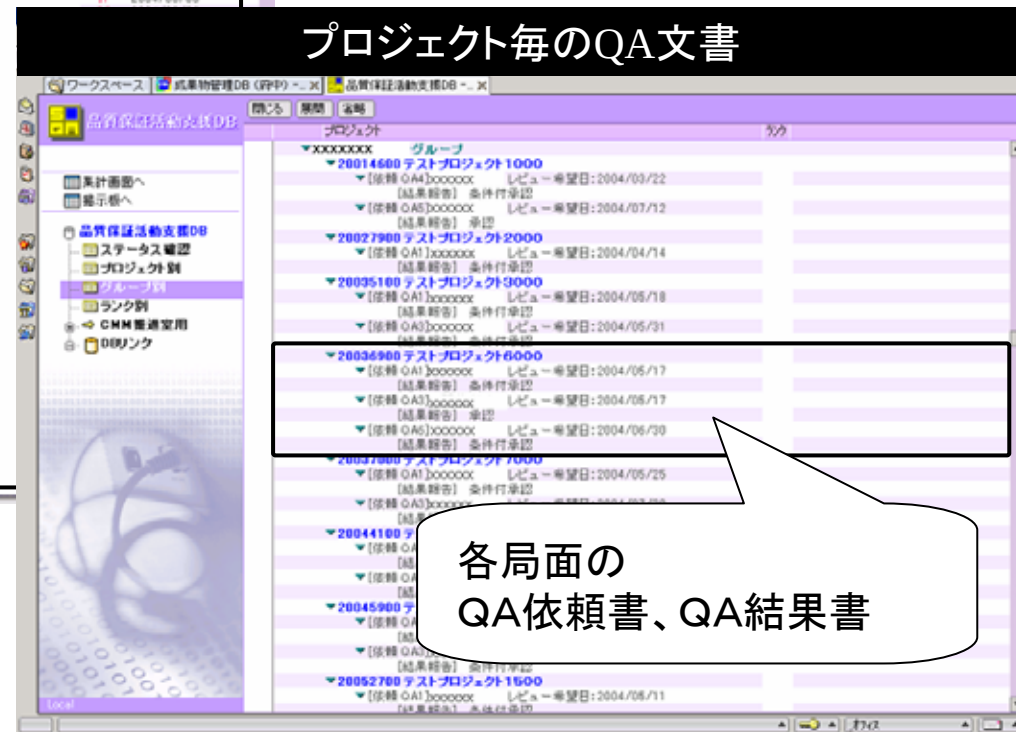
独自開発した支援ツールの紹介



SQADBの主な機能(その1)



次回QA、QA予定日などの
状況を表示



各局面の
QA依頼書、QA結果書

独自開発した支援ツールの紹介



SQADBの主な機能(その2)

QAレビューの予実管理

SQAグループ向け掲示板

各局面の
QA予定、QA実績を表示

- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

- 作業負荷の軽減
 - 重複入力などの手間を抑えた
 - テンプレート展開、成果物リサイクル
- コミュニケーションの向上
 - メンバ間の情報連携
 - QA活動を支援するワークフローによる連携
- プロジェクトの可視性向上
 - 上級管理層、PM、SQA、メンバなど各役割に応じた視点でプロジェクト状況の把握が可能となった

- 「今、そこにあるものを使う」
- 「シンプル & 誰もが使える」
- 「StartSmall」

- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取り組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

様々な声が現場から

- 社内の様々な既存ツール、DBを支援ツールと連携・連動してほしい
- 短期間に何度も機能追加したため、いつになったら落ち着くのか、といったクレームが殺到
- 現状、Excel、Word文書の添付を基本としているが、各種成果物をノーツ文書化してほしいとの要望あり
- 市販の高機能なツール導入（見積りツールなど）を求める声もある
- 管理作業に関わる煩雑な作業を軽減できるので助かっている、といったうれしい声も。。

- 当社の紹介
- プロセス改善とCMMへの取組み
- レベル2を支援するツールの検討
- 支援ツール実装の解決策
- 独自開発した支援ツールの紹介
- 独自開発とツールの効果
- 展開後の現場の声
- 今後の展望

現在、当社ではSW-CMM ML2からCMMI ML3
を見据えたプロセス改善を推進中



プロジェクト管理そのものの支援が可能なツール等
総合的に検討している

ご清聴ありがとうございました。是非ご質問ください。



yamazaki@dls.dai-ichi-life.co.jp